

文部科学省の大学分科会は、1月に「教学マネジメント指針」を取りまとめた。この中では、3つのポリシーに基づいたカリキュラムマネジメント構築の重要性が謳われている。しかし、実際にカリキュラムはどのように構築すれば、より効果的で成果の上がるものになるかはあまり知られていないとも言える。そこでこのたびは、カリキュラムコーディネーター養成研修会の責任者を務める愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室の中井俊樹教授に、カリキュラム構築の基本について寄稿してもらった。昨今の、新型コロナウイルス下での、カリキュラムの対応の方法についてもヒントになるに違いない。

愛媛大学

中井俊樹

カリキュラムの構成要素

大学教育改革の最も中心的課題は、学生に何をどのように学習させるかというカリキュラムであると言ってもよいであろう。カリキュラムは、教育理念にそって大学が主体的に編成するものである。学習指導要領がある高等学校までの教育とは異なり、カリキュラム編成には大学に大きな裁量があり、各大学ならではの特徴を表現することができる。

教育目標

カリキュラムをどのよう編成したらよいのかは、多くの大学関係者の関心事であるようだ。どのようにカリキュラムを変えることができるのかは重要な課題であるが、カリ

キュラムの編成や評価の際の方向性や基準が明確になる。

歴史的に大学は、職業人を育成する、市民を育成する、研究者を育成するといったさまざまな教育



育目標を掲げてきた。教育目標を考

最初に決めるべきものは教育目標である。現在では、大学にディプロマ・ポリシーの策定と公開が義務づけられており、ディプロマ・ポリシー上で卒業時にどのような能力を身につけることができ

るのかを示した教育目標が記されるのが一般的である。具体的な教育目標を設定することで、カリ

力などは教育目標を検討する際に参考となるであろう。また、国家資格を必要とする職業人を育成する場合は、育成すべき人材像や開講すべき授業科目の指針が法令で定められていることが多い。多くの大学のディプロマ・ポリシーでは、認知領域、精神運動領域、情意領域といった領域ごとに整理して教育目標が提示されている。

編成方針

教育目標を達成するカリキュラムにするために

を示す。一方、シーケンスとは、教育内容をどのように配列するかという順序を示す。大学がどのような意図を込めてスコープとシーケンスを設定しているのかを示すのである。一定数の授業科目を授業群として設定する。マトリクス型は大きくマトリクス型とチャート型に分類分けされる。マトリクス型は、デ

カリキュラム・ポリシーは、カリキュラムにおける授業科目間の系統性や関係性を図示化した力である。マトリクス型とチャート型は、一定数の授業科目を授業群として設定する。マトリクス型は、デ

れる2学期制、クォーター制と呼ばれる4学期制などの方法がある。より細かく6学期制をとっている大学もある。短期的に集中して学習することに向いている教育内容なのかどうかによって適切な学期の区切り方は変わるであろう。学生の留学やインターシップなどの活動を促す目的のもとで細かく学期を区切る大学もある。また、通常の区切りとは異なる集中講義も多く大学の取り入れられている。

や交通機関の都合なども単位時間の変更には関わってくる。開講頻度についても、週1回授業、週2回授業などの方法がある。週2回授業には、2コマ連続して実施する場合と異なる曜日の組み合わせで実施する場合がある。クォーター制の導入に伴い、月曜と木曜、火曜と金曜などの異なる曜日をセツトにして週2回授業の形式にする大学もある。学期の区切り、単位時間、開講頻度は相互に影響し合うため、同時に検討するべきであろう。

カリキュラムの

構成要素を理解する

〈上〉

は、カリキュラムの編成の方針を定める必要がある。この方針はカリキュラム・ポリシーと呼ばれる。

経験主義という2つの立場がある。系統主義は学問の体系にそってカリキュラムを編成する立場である。一方、経験主義は

カリキュラムの編成の方針を考

カリキュラムにおける授業を

カリキュラムにおいて授業を

カリキュラムの分

カリキュラムの分

カリキュラムの編成の方針を考

カリキュラムの編成の方針を考

カリキュラムの編成の方針を考

カリキュラムの編成の方針を考

カリキュラムの編成の方針を考

カリキュラムの編成の方針を考

カリキュラムの編成の方針を考